平成２９年１月１９日
ＮＨＫ広報局

１月会長定例記者会見要旨

Ｑ．３年間を振り返って
Ａ．（籾井会長）私は来週２４日の任期満了をもってＮＨＫ会長を退任する。この場を借りて退任のあいさつを申し上げる。
　はじめに、視聴者をはじめ、ＮＨＫにご支援・ご協力をいただいた皆さまに心からお礼を申し上げる。おかげさまで会長として３年間の任期を全うすることが出来た。率直に感想を申し上げれば、「放送」というこれまで縁のなかった世界でも、「決断と実行」を実践し、「まっすぐな生き方」を貫くことが出来た。ＮＨＫ会長ならではの経験もたくさんさせていただいた。とてもハッピーだったと実感している。
　振り返れば、今年度上半期に総合テレビのゴールデンタイムの平均視聴率が初めてトップに立つなど、ＮＨＫの番組はよく見られるようになった。国際放送は外国人向けの「ＮＨＫワールドＴＶ」を刷新し、海外での視聴可能世帯の拡大に加え、国内のケーブルテレビへの導入も進んだ。新サービスの展開では、８Ｋ放送に加えて４Ｋ放送も行うことを経営決断したほか、テレビ放送のインターネット常時同時配信の実現に向けて検証実験を開始するなど、２０２０年のターゲットイヤーに向けて、着実に駒を進めることが出来た。放送センターの現在地での建て替えも大きな経営決断だった。将来の公共放送の礎を築くことが出来たと自負している。とりわけ印象に残っているのは、去年のリオデジャネイロパラリンピックの放送だ。オリンピック並みに「録画から中継」「ＢＳから地上波」の放送を増やすよう現場にお願いした。その結果、パラリンピックの関係者をはじめ、多くの視聴者から好評を得た。「ボッチャ」という競技はパラリンピックが始まるまでまったく知られていなかった。それが今や皆さん御承知で、使われる球は１個６０００円するそうだが、１２個１組のものが飛ぶように売れているそうだ。

一方、経営委員会が来年度予算の審議で値下げ案を認めなかったことは、理解しがたいと思っている。現経営計画で「放送センターの建替計画が具体化した段階で収支を見直す」としてきた約束と、これまで基本的に守ってきた収支均衡予算の原則を覆すほどの根拠があったのかどうか。「財政的に余裕があれば、視聴者に還元する」「支払率が上がれば、受信料の値下げにつながる」。そうした実感を視聴者の皆さまに得ていただく絶好の機会だっただけに、非常に残念だ。近く公表される経営委員会の議事録をよく読んでみてください。

会長のバトンを託す上田さんには、引き続き諸課題の取り組みや改革を推進して欲しい。一方で、出来るだけ早くプロパーの方が会長を担えるようなＮＨＫになることを期待している。そのためには、役職員が「われらのＮＨＫ」という意識を持つことが大事だ。また、経営を担う人材には、組織全体をコーディネートできる力量を身につけてもらいたい。

３年間の成果は、役職員が一丸となって取り組み、そして、何よりも視聴者の皆さまがＮＨＫを支持してくださったということに尽きる。重ねて感謝を申し上げる。これからも「皆さまから支持されるＮＨＫ」「皆さまに見ていただけるＮＨＫ」であり続けて欲しい。放送と通信の融合時代にふさわしい「公共メディア」、世界に冠たる「国際メディア」への進化を心から願い、私の退任のあいさつとしたい。